第２学年「みがく」学習指導案

授業者　岩坂　尚史

２月１７日（金）２階Ｃ室　９：００～９：４０

１　活動名　　身近にあるものの秘密を考えよう

２　活動について

本校の低学年教育で特に大切にしている活動は，サークル対話と計画表を用いた個別の学習の時間である。サークル対話は，子どもたちが生活の中で感じたことや考えたこと，興味をもったことを語り合い，聴き合う時間で，このサークル対話から共感や驚き，問いが生まれ，新たな語彙の獲得や学びが生まれることがある。計画表に基づく学習は，子どもたちが自ら課題をえらび，計画を立てて学習し，その学びを自分だけでなく，クラスの友だちや教師，保護者とともに振り返る活動である。この計画表に基づく個別の学習では，ことばや算数にかかわる学習や「手しごと」，「みつける・しらべる」などに取り組んでいる。これらの学習が，個別の学習から協働の学習に発展したり，教科で取りあげる課題となったりする場合もあれば，教科の学びから個別の学びになっていく場合もある。

「みつける・しらべる」の学習は，春みつけなどの活動のほか，生活の中で気になったことを観察したり調べたりしてまとめる活動である。今回は，この「みつける・しらべる」で個々の学びと協働の学びをつくる活動を行いたいと考えた。この「みつける・しらべる」では，二年当初から，子どもたちは校庭に出て，植物や昆虫を観察したり栽培したりしながら，季節の移り変わりを感じ，自然に関心を寄せ，調べてまとめる活動などを意欲的に行ってきた。これらの活動は，サークル対話などを通して，見聴きし合ってきた。そのせいか，自然に対する興味が湧き，じっくり観察する目も育ってきている。

ここまでの学習で育ってきたことを生かし，今回は大学構内という公共の場所の散策を行い，個々の興味関心に沿って自由に発見したことを語り合い聴き合う活動を設定した。本校の通学域は２３区となっており，様々な地域から通っているため，子どもたちの共通している身近な地域がない。大学構内の散策という共通の体験を通して，同じところを歩いてみているのに，教室で話し合ってみると自分が気付かなかったことに友だちが気付いていたことを知る。この経験を繰り返していくうちに，子どもたちは少しずつ周囲を見る目が変わり，自然発生的に問いや驚きが生まれたり，注意深く見つめたりするなどの気づきの質が高まることにつながると考える。

また，語り合いを通して，他者の視点が私の中に入っていくことが，今まで気付かなかった大学構内の新しい発見につながっていくのではないかと考える。そして，新たな公共物や私たちの生活を支えているものの発見につながっていければと考えている。

３　学習活動計画（１２時間目／全１３時間）

○大学構内に出かけ，子どもたちの諸感覚で様々なものを感じ取る。（６時間）

○お気に入りの発見を個人でまとめ，子どもたち同士で紹介し合う。（３時間）

○その中でどんな意味があるのか等みんなで話し合いたいものを取り上げ，そのものがどんな意味や役割があるのかを話し合う。（本時１／２時間）

４　本時の活動について

（１）本時のねらい

大学構内で見つけたものには，どんな意味があるのかを話し合いを通じて考える。

（２）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留　意　点
○大学校内で発見したものを紹介しあう。 （例…標識，ゴミ収集車，自動販売機・大学生協，警備の方，「グリーンアドベンチャー」など） ○出てきたもの中から，みんなで考えてみたいものを取り上げ，どんな意味が込められているのか，考え，予想を出し合う。	○見つけた事実でなく，なぜそれを取り上げたのか，不思議なことや，その物の意味といった根拠をもとに発言するように促す。 ○話し合いの中で，何のためにあるのか，誰にとってどのような意味があるかを考え，多面的に捉えるようにする。